

『今』を生きよう⑩ 「平和へのビジョン」 出エジプト記20:12-17

イスラエルの民はシナイ山に集まり、主と契約を結び、正式に神の民として歩みだそうとしています。主は彼らのために生活の基準となる法を与えてくださいましたが、その前にご自分の願いとビジョンが込められた10の言葉を語られました。最初の4つの言葉は信仰的なメッセージ、すなわち、ただ主を、この世界の造り主として礼拝し、そのために定められた安息のときを忘れないようにしなさいというメッセージでした。神と民との関係について語られたものなのです。それに対して 5番目の言葉からは隣人との関係について語られた倫理的なメッセージで、主がご自分の民にどのような共同体をつくり上げてほしいかを語られたものです。

神の国、平和の国

わたしたちが信頼をもって聖書を読むことができる一つの理由は聖書がもっている一貫性です。数千年という期間と40名以上という人によって書かれたものなのに、あまりにも明確なメッセージを一貫して語っているからです。その中で重要なテーマの一つは、神さまがイスラエルを通してつくろうとされた国、預言者たちによって必ず実現されると繰り返し預言された国、イエスさまによって本格的にスタートされ、やがて完成されると約束された国、すなわち、神の国です。イザヤ書には神の国のイメージがいくつか記されています。「主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。」(2:4)このような箇所から分かるのは神の国の最も強いイメージは平和の国であるということです。主はそのような国がこの地にも建てられることを願われ、熱意をもって成し遂げてくださる(イザヤ9:6)と約束されました。

今日の箇所はこれから神の国のモデルとして建てられていくイスラエルに、初めて神の国のイメージが語られたところです。わたしたちはここから平和の国への主のビジョンを知ることができますし、平和の国が建てられていくための大切なメッセージを受けることができます。では、6つのメッセージを簡単に見てみましょう。

平和な共同体をつくるための6つのメッセージ

①「あなたの父母を敬え」

この言葉が大人に向けて語られたことと、「敬う」と訳された原語の意味から考えてみますと、この言葉には心から親を尊敬するという意味だけでなく、物質的にも精神的にも支えるという意味も含まれています。主はご自分の民が年老いた親を大切にすることを切に望まれ、この言葉を守る人には人生において長寿の祝福を約束されました。民の皆がこの言葉を守るなら、その共同体にはどのようなことが起きるでしょうか。自分の親を大切にしながら、人の親を無視することはできません。すると、人を社会に役立つかどうかで判断するのではなく、いくら弱くても一人ひとりをありのままに大切にできる共同体になっていくのではないのでしょうか。そこから平和な共同体はつくり上げられていくのです。

②「殺してはならない」

ここに「殺す」と訳された言葉は共同体に害を与える不法の殺人を意味します。ですから、この6番目の言葉は自分の利益のために人の命を奪おうとする人間の罪から人々の命を保護し、共同体の平和と秩序を守るためのメッセージなのです。

③「姦淫してはならない」

姦淫を厳しく禁じている理由は結婚によって築かれた家庭を守るためです。平和な家庭があって平和な共同体が建てられるからです。イエスさまは言われました。「神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない。」(マタイ 19:6b)

④「盗んではならない」

人の自由を奪い奴隷化すること、人を誘拐することなど、人に対するメッセージであり、だれかの財産に対するメッセージでもあります。主は人としての自由や権利が守られ、生きていくための財産を奪われることのない共同体が作り上げられることを望んでおられるのです。

⑤「隣人に関して偽証してはならない」

旧約聖書を読みますと、町の人々が集まって話し合いながら様々な問題を解決する場面が出てきます。そのとき、最も重要な基準となるのは人の証言です。その証言が真実か偽りかによって誰かの財産のみならず命もかかっているのです。この9番目の言葉は悪気のある偽りの証言や噂から人々を守るためのメッセージなのです。

⑥「隣人の家を欲してはならない」

7番目の「姦淫してはならない」と、8番目の「盗んではならない」という言葉がありますので、この最後の言葉は行動に対してのメッセージではなく、心のうちにある貪欲、いつでも行動に現れる可能性のある欲望を持たないよう、心に目を向けなさいというメッセージです。欲に心が動かされてしまうとそこから行動へ発展し、共同体の平和は壊れてしまうでしょう。

主は今シナイ山の前に集まっているイスラエルの民にご自分のビジョンを語っておられます。弱くなった一人ひとりを大切に作る民、主に与えられた命を大切に守る民、主が結び合わせてくださった家庭を守る民、人の自由と財産を尊重し守る民、偽りの証言から人を守る民、争いを招く欲望に目を向けて注意する民、そんな主の民が作り上げていく共同体、神の国のモデルとなる国を夢見ておられるのです。

そして、今キリストに結ばれ、神の国を味わいつつ、その国が完成されるのを待ち望んでいるわたしたちにも語っておられます。必ず実現される主のビジョンを自分のビジョンとし、主と共に平和な家庭、平和な教会、平和な会社・学校、平和な地域、平和の国、平和な世界をつくり上げていきなさい、と。平和主日を覚え、わたしたちを平和の道へ招いておられる主にどう応えるかを共に考え、祈り、働いていきましょう。